

平成 31 年 4 月 22 日

統一地方選挙についての談話

都民ファーストの会
代表 荒木千陽

令和という新しい時代を迎える年の統一地方選挙にあたり、都民ファーストの会は都内に公認 28 名、推薦 1 名の区市議員候補を擁立し、都政と連携した「東京大改革」を訴えて闘いました。12 名の現職が全員当選を果たしたことに加えて、元職 1 名、新人 11 名が当選を果たし、改選前に比べて倍増となる 24 議席を獲得できたことは、受動喫煙防止条例や待機児童対策など、都民ファーストの会の公約に基づく取り組みが都民の皆様に届いた結果であると受け止めています。

とりわけて、現職全員の当選は、これまでの取り組みの評価であり、数多くの新人の当選は、今後の都民ファーストの会への期待の表れであると確信しています。

同時に、都議会で議決した受動喫煙防止条例などは、地域の区市町村議会において議論が重ねられ、積極的に推進されなければ、実効性を確保することが困難であることから、今後、当選した 24 名の区市議員とともに、都民ファーストの視点に立った政策を都政との強固な連携のもとに進め、地域に根ざした政策実現をはかって参ります。

また、選挙期間中には各地で、議会の「ふるい体質」と闘う姿勢を強く求められました。力強い新たな仲間の議員とともに、各地域で「やっぱり都民ファースト」と言われるように、ふるい議会に立ち向かって参りたいと決意を新たにしています。

この度の統一地方選挙にあたり、ご支援をいただきました皆様に心から感謝を申し上げ、「東京大改革」を都内全域に広げていくことをお誓いいたします。

以上